

コース名		科目名			対象学年			
人体の構造と機能 I		消化器・呼吸器			1			
開講学期		科目責任者		副責任者				
2 学期		樋田 一徳		毛利 聡				
目的								
消化器と呼吸器の構造と生理機能を理解する。								
授業到達目標								
<p>予め配付する講義録をもとに、受講（講義と実習）と自己学習（教科書熟読・グループ学習）による自学自修をバランスよく実行できるようにする。具体的内容としては、下記の事項を説明できることを目標とする。</p> <p>消化器</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各消化器官の位置、形態と血管分布、特に食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違い、及び腹膜と臓器の関係を説明できる。</li> <li>2. 咀嚼と嚥下の機構、及び消化管運動の仕組みについて説明できる。</li> <li>3. 肝の構造と機能を説明できる。</li> <li>4. 胃液の作用と分泌機序、胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序、及び膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。</li> <li>5. 小腸における消化・吸収、大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。</li> <li>6. 消化器に対する自律神経、消化管ホルモンの作用、及び正常細菌叢の役割を説明できる。</li> </ol> <p>呼吸器</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。</li> <li>2. 肺循環の特徴と肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。</li> <li>3. 縦隔と胸膜腔の構造、呼吸筋と呼吸運動の機序、及び肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係（コンプライアンス）を説明できる。</li> <li>4. 肺の換気と血流（換気血流比）が動脈血ガスにおよぼす影響を説明できる。</li> <li>5. 血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。</li> <li>6. 呼吸中枢を介する呼吸調節の機序、及び気道と肺の防御機構（免疫学的・非免疫学的）と代謝機能を説明できる。</li> </ol>								
授業計画								
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	9/12	木	2	講義	林周	解剖	呼吸器系の構造(1): 概説; 胸腔臓器 (心臓を含む)・気道組織	PS-02-07-01
2	9/12	木	3	講義	林周	解剖	呼吸器系の構造(2): 肺組織	PS-02-07-02
3	9/19	木	2	講義	樋田	解剖	消化器系の構造(1): 概説; 消化と吸収、分泌と排泄	PS-01-03-07, PS-02-08-01
4	9/19	木	3	講義	毛利聡	生理 1	消化器系の機能(1): 概説	PS-01-03-07, PS-02-08-01
5	9/24	火	2	講義	森田将	解剖	消化器系の構造(2): 口腔、歯、唾液腺、咽頭	PS-02-08-01, PS-02-16-01
6	9/24	火	3	講義	森田将	解剖	消化器系の構造(3): 食道、胃	PS-02-08-01
7	10/ 1	火	2	講義	中田昌	呼外	呼吸器系の構造(3): 縦隔・胸腔臓器	PS-02-07-01, PS-02-07-02
8	10/ 1	火	3	講義	樋田	解剖	消化器系の構造(4): 小腸、大腸	PS-02-08-01
9	10/ 4	金	1	講義	樋田	解剖	消化器系の構造(5): 肝臓	PS-02-08-01
10	10/ 4	金	2	講義	毛利聡	生理 1	消化器系の機能(2): 消化管の機能①; 消化	PS-02-08-01
11	10/ 8	火	1	講義	毛利聡	生理 1	消化器系の機能(3): 消化管の機能②; 吸収と排泄	PS-02-08-01
12	10/ 8	火	2	講義	樋田	解剖	消化器系の構造(6): 胆嚢、膵臓	PS-02-08-01
13	10/ 8	火	3	講義	横西	解剖	消化器系の発生	PS-01-02-25, PS-02-08-01
14	10/10	木	1	講義	横西	解剖	呼吸器系の構造(4): 頭頸部; 鼻腔、咽頭、喉頭	PS-02-07-01
15	10/15	火	1	講義	上野富	消外	消化器系の構造(7): 消化器系の臨床解剖	PS-02-08-01
16	10/21	月	1	講義	毛利聡	生理 1	消化器系の機能(4): 肝臓、胆嚢、膵臓	PS-02-08-01
17	10/21	月	2	講義	毛利聡	生理 1	呼吸器系の機能(1): エネルギー獲得における呼吸の役割	PS-02-07-01

18	10/21	月	3	講義	毛利聡	生理 1	呼吸器系の機能(2)：換気メカニズムと肺気量分画	PS-02-07-01
19	10/23	水	4	講義	毛利聡	生理 1	呼吸器系の機能(3)：肺胞の換気・血流	PS-02-07-01
20	10/23	水	5	講義	河瀬智	消内	消化器系の構造(8)：肝臓、胆嚢、膵臓の臨床解剖	PS-02-08-01
21	10/28	月	2	講義	毛利聡	生理 1	呼吸器系の機能(4)：肺循環	PS-02-07-01
22	10/28	月	3	講義	毛利聡	生理 1	呼吸器系の機能(5)：呼吸の調節	PS-02-07-01
	11/ 5	火	1	講義末試験			講義末試験	
23	11/ 5	火	2	講義	樋田	解剖	消化器・呼吸器まとめ	PS-01-03-07, PS-02-07-01 PS-02-08-01
<b>評価方法</b>								
[講義末試験]90% (筆記試験にて行う。)								
[出席状況 (受講態度)]10% (出席状況と受講態度を重視し、段階的に評価する。)								
[評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価、実習態度評価								
<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて</b>								
試験直後の講義では、試験内容の解説を行う。								
<b>教科書</b>								
ISBN-9784784931811, カラー図解人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版 第 4 版, 坂井建雄, 河原克雅総編集, 日本医事新報社, 2021/01								
ISBN-9784260041324, 標準組織学 各論 第 6 版, 藤田尚男, 藤田恒夫原著 ; 岩永敏彦, 渡部剛改訂, 医学書院, 2022/03								
ISBN-9784524260041, diFiore 人体組織図譜 原著第 11 版, V. P. Eroschenko, 相磯貞和 (翻訳), 南江堂, 2011/04/27								
<b>参考書</b>								
ISBN-9784263731468, カラーアトラス機能組織学 原著第 2 版, Jeffrey B. Kerr, 河田 光博 (監訳), 小路 武彦 (監訳), 医歯薬出版, 2013/01/10								
ISBN-9784890133086, 最新カラー 組織学, L. P. ガートナー, 井上 貴央 (監修), Leslie P. Gartner (原著), James L. Hiatt (原著), 西村書店, 2003/05/01								
ISBN-9784758300889, 解剖学 (カラーイラストで学ぶ 集中講義), 坂井 建雄 (編集), メジカルビュー社, 2012/03/30								
ISBN-9784260034296, 標準生理学 (Standard textbook), 本間 研一 (監修), 医学書院, 2019/03								
ISBN-9784890134823, カラー ポケット組織学, リサ・M・J・リー (著/文), 樋田 一徳 (監訳), 西村書店, 2018/03/01								
<b>準備学習 (予習・復習等)</b>								
講義の全内容は講義録としてまとめ、随時、授業開始前にアップロードする。予習・復習は不可欠で、講義録をもとに、講義前日までの予習、講義当日の復習は必ず行うこと。学習法は講義・実習で教示する。教科書「人体の正常構造と機能 (全 10 巻縮刷版)」・第 1 章：呼吸器、第 3 章：消化器を熟読し、予習・復習することが特に重要である。1 日の講義・実習に対して、予習復習にそれぞれ 60 分程度必要である。								
<b>講義についての注意事項</b>								
1. 人体の構造を自らの身体と生命現象を参考に理解してほしい。覚えることばかりに拘らず、人体に興味を持ち、生命の不思議を考えてほしい。								
2. 限られた時間で人体構造の概要を概説するので、予め配付する講義録をもとに、各自のメモ、ノートを加えて自分なりの学習法を身につけよう。								
3. 質問、学習方法等気軽に相談してほしい。連絡は、1) 教員秘書カウンターを通して連絡 (下記オフィスアワー)、あるいは 2) メールで連絡する。いずれもまず科目責任者 (樋田) に連絡する。								
<b>昨年度からの変更点・改善項目</b>								
授業内容から実習を外し、「組織学実習」として独立した科目とした。								
<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について</b>								
本科目履修には高校理科・英語等の基礎学力が必要である。2 年次の「人体の構造と機能Ⅱコース」と「個体の反応 病因と病態コース」履修へと続く学問である。								
<b>ナンバリング</b>								
BLDR117								